

7 北 振 第 2085 号
令和 7 年 12 月 15 日

福島県農林水産部長 殿

東北農政局農村振興部長

土地改良事業計画設計基準 計画「暗渠排水」及び土地改良事業計画設計基準
計画「農地保全」における計画排水量の算定に用いる計画基準雨量等について

このことについて、令和 7 年 12 月 5 日付け 7 農振第 2025 号をもって、農村振興局整備部設計課長から別紙のとおり通知があったので御了知願います。

7 農振第 2025 号
令和 7 年 12 月 5 日

東北農政局農村振興部長 殿

農村振興局整備部設計課長

土地改良事業計画設計基準 計画「暗渠排水」及び土地改良事業計画設計基準
計画「農地保全」における計画排水量の算定に用いる計画基準雨量等について

令和 7 年 4 月に改定した土地改良事業計画設計基準 計画「排水」（以下「計画「排水」」という。）は、排水施設の規模を定める根拠となる計画基準降雨について、将来の降雨予測に基づき推定することとし、その手法を追加したものである。

土地改良事業計画設計基準 計画「暗渠排水」（以下「計画「暗渠排水」」という。）
及び土地改良事業計画設計基準 計画「農地保全」（以下「計画「農地保全」」という。）
で示している計画排水量の算定に用いる計画基準雨量等の求め方は、計画「排水」で示
している計画基準降雨の求め方と整合していないことから、計画「排水」を参照するよ
うに改定する必要がある。

ただし、改定期時は未定であるため、当面の間は、計画「暗渠排水」及び計画「農地
保全」における計画基準雨量等について別紙 1 及び 2 のとおりとするので、適切に対応
されたい。

また、貴局管内の関係県に対しても、このことについて貴職から周知されたい。

別紙1 計画「暗渠排水」における計画排水量の算定に用いる計画基準雨量

計画「暗渠排水」に基づき計画基準雨量を求める際は、以下の当面の間の対応によるものとする。

(傍線部分は変更部分)

ページ	当面の間の対応	現行
p. 37	<p>第3章 計画</p> <p>3.2 計画基準値の決定</p> <p>3.2.1 計画暗渠排水量</p> <p>2. 水田の畑利用及び畑の場合の計画暗渠排水量</p> <p><u>水田の畑利用及び畑の場合の計画暗渠排水量の算出に用いる計画基準雨量を求める際は、計画「排水」を適用されたい。</u></p> <p><u>計画暗渠排水量を算出する場合の基礎となる計画基準雨量は、気象観測資料を用いて確率統計解析により得られた実績降雨に基づく確率降雨量(1/10年確率の4時間雨量)に、気温上昇時の気候予測資料により求めた降雨量変化倍率(過去実験値と将来実験値の各確率降雨量の比)を乗じて推定するものとし、これをおおむね4時間で地表排水及び地下排水により排除することを排水目標とする。</u></p> <p><u>なお、気候予測資料は、全国5kmメッシュアンサンブル気候予測データ(通称:d2PDF(5km))※を使用する。</u></p> <p><u>※計画「排水」技術書19.1(2)気候予測資料(データセット)の選定を参照。</u></p> <p>(中略) 具体的には、計画暗渠排水量は、水田の畑利用の場合は、30~50mm/dが、畑の場合は10~50mm/dが、標準的な値である。</p>	<p>第3章 計画</p> <p>3.2 計画基準値の決定</p> <p>3.2.1 計画暗渠排水量</p> <p>2. 水田の畑利用及び畑の場合の計画暗渠排水量</p> <p>計画暗渠排水量を算出する場合の基礎となる計画基準雨量は1/10年確率の4時間雨量とし、これをおおむね4時間で地表排水及び地下排水により排除することを排水目標とする。</p> <p>(中略) 具体的には、計画暗渠排水量は、水田の畑利用の場合は、30~50mm/dが、畑の場合は10~50mm/dが、標準的な値である。</p>

別紙2 計画「農地保全」における計画排水量の算定に用いる計画基準雨量

計画「農地保全」に基づき計画基準降雨を求める際は、以下の当面の間の対応によるものとする。

(傍線部分は変更部分)

ページ	当面の間の対応	現行
p. 11	<p>第3章 計画</p> <p>3.5 計画排水量</p> <p>3.5.1 計画排水量の規模と計画基準降雨</p> <p>排水路断面決定の基礎となる計画排水量の規模は、原則として排水路及び集水路については10年に1回、承水路については5年に1回起こると考えられるピーク時の流出水量を基準とする。</p> <p><u>計画排水量の算出に用いる計画基準降雨を求める際は、計画「排水」を適用されたい。</u></p> <p><u>計画基準降雨は、気象観測資料を用いて確率統計解析により得られた実績降雨に基づく確率降雨量に、気温上昇時の気候予測資料により求めた降雨量変化倍率（過去実験値と将来実験値の各確率降雨量の比）を乗じて推定するものとする。</u></p> <p><u>なお、気候予測資料は、全国5kmメッシュアンサンブル気候予測データ（通称：d2PDF(5km)）※を使用する。</u></p> <p><u>※計画「排水」技術書19.1(2)気候予測資料（データセット）の選定を参照。</u></p>	<p>第3章 計画</p> <p>3.5 計画排水量</p> <p>3.5.1 計画排水量の規模</p> <p>排水路断面決定の基礎となる計画排水量の規模は、原則として排水路及び集水路については10年に1回、承水路については5年に1回起こると考えられるピーク時の流出水量を基準とする。</p>